

2017  
第7号

若者がつくる広報ニューしすい

# YOUNG EYES



Young Eyes 第7号の編集にあたり、新たに淑徳大学(千葉市中央区)の学生6人が編集委員に加わりました。今回は「おやかフェ酒々井」、「しすいまちファミリー・サポート・センター事業」、「酒々井・千葉氏まつり」について取材をしました。

表紙は「おやかフェ酒々井」の活動に参加されている方々と活動場所のSHISUIBASE前で撮った一枚です。(詳細はP2)

酒々井町マスコットキャラクター



井戸っこ(しすいちゃん)



広報ニューしすいYoung Eyes編集委員会

◆発行・編集／酒々井町企画財政課広報広聴班

〒285-8510 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-11 ☎043(496)1171

# おやかカフェ酒々井



淑徳大学4年  
高橋 瑠璃奈



おやかカフェ酒々井の  
高橋 恭子会長

大室台小学校の近くで、不定期にさまざまな催しが行われ、地域住民が集まり賑わいを見せているという「おやかカフェ酒々井」!!

皆さんご存じですか? 「おやかカフェ酒々井」が取り組んでいる活動などについて、高橋恭子会長に淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科4年の高橋がお話を伺いました。

**高橋(瑠)** 平成29年4月からおやかカフェ酒々井を発足して、活動を始めているとのことですが、始めるきっかけについて教えてください。

**高橋(恭)** 私は地域の子どもや大人も集え、気軽に活動できる場所を作ることによって、地域のコミュニティが活性化し、もっと住み良い町になるのではとの思いから、仲間と相談して、平成29年度の町住民公益活動補助金を活用して、活動を始めることにしました。

**高橋(瑠)** おやかカフェ酒々井の活動場所、活動日、活動内容について教えてください。

**高橋(恭)** 活動場所は、大室台小学校の近くにある(株)エールテックさんの建物を利用していただいで、月に1回不定期に活動しています。活動内容は2つの事業です。一つは酒々井まちライブラリーの運営、もう一つはチャレンジワークショップスリープスの企画運営です。

**高橋(瑠)** それぞれの事業について詳しく教えてください。

**高橋(恭)** 酒々井まちライブラリーの運営ですが、家庭で読まなくなった本を寄付していただき、みんなの図書館を作るものです。本を寄贈してもらったオー

ナーには、本への思いを綴ったメッセージカードを本に添えてもらっています。また、本を読んだ方々にも、本を読んだ感想をメッセージカードに記入できる仕組みにしています。このようなかことで人と人の繋がりが生まれるのではないかと考えています。



皆さんから寄贈された多くの本

チャレンジワークショップスリープスの企画運営ですが、ちょっとしてみたい活動や趣味を気軽に人に教えたい方(特に初心者の方)に、この場所を自由に利用してもらい、地域の方々と交流の場としてもらうものです。

**高橋(瑠)** 4月からどのようなイベントを開催したのですか。

**高橋(恭)** 酒々井まちライブラリーの運営では、ご家庭からいただいた本などを自由に皆さん

に読んでもらっています。チャレンジワークショップスリープスの企画運営では、アイシングクッキー作り、プラバン作り、ガーランド作り、マルシェなどを行いました。



アイシングクッキーの作り方を学ぶ参加者

**高橋(瑠)** 月に一回のイベントを楽しみにしているとの声があると聞いています。

**高橋(恭)** 活動の励みになりますね。この場で出会った方々が新たに繋がっていく良い場になればうれしいです。

**高橋(瑠)** 最後に、地域の皆さんにおやかカフェ酒々井のPRがあればお願いします。

**高橋(恭)** 「誰もが気軽に」というのが私たちのキーワードです。世代を問わず多くの方々に、

このおやかカフェを利用していただきたいです。特技や趣味を人に教えたい方々は多くいらっしゃると思います。友達から出店してみればと声を掛けられ出店する方が多いんですよ。

何かをやりたい方が自分のやれる範囲で、無理なくおやかカフェのスペースを利用していただき、地域の方々と大いに交流してほしいです。

今後も皆さまが楽しめる企画運営をしていきたいと考えていますので、ぶらりと立ち寄ってみてください。

**高橋(瑠)** 本日はありがとうございました。おやかカフェ酒々井の高橋会長にお話を伺いました。フェイスブック

<https://ja-jp.facebook.com/oyaco.cafe.suisui/>

## ◆取材後の感想◆

活動されている場所に伺うと、建物内装は木を使い、落ち着いた雰囲気でおしゃれな家具や小物で飾りつけてあり、見てわくわくしました。興味のある人が入りやすいオープンな雰囲気も魅力のひとつと感じました。(高橋(瑠))

# しすいまち ファミリー・サポート・センター事業



(左から) 町職員の神崎さん、實川、協会の土井さん、鈴木、アドバイザーの大宮さん

平成28年から地域での子育て支援強化のために始まった、しすいまちファミリー・サポート・センター事業について、町の担当者、この事業の援助活動を行っている方々に、淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科3年の鈴木、實川がお話を伺いました。

**鈴木** しすいまちファミリー・サポート・センター事業について教えてください。

**神崎** 地域で子育てをお手伝いする会員組織です。

子育てのお手伝いをしてほしい方(以下「利用会員」と、お手伝いをしたい方(以下「協力会員」)が登録会員となり、お子さんのお預かりや送迎などを有償で行う地域のサポートシステムです。

**鈴木** 会員になるための手続きについて教えてください。

**神崎** 入会の説明会と基礎研修を受けていただきます。

入会の説明会は、利用会員と協力会員、利用会員と協力会員の両方をしますという方(以下「両方会員」)に受けていただき、基礎研修は協力会員と両方会員の方に受けていただきます。

**鈴木** サポートを受けられる利用会員の条件と利用の流れは。

**神崎** 利用会員の条件は、町内在住・在勤・在学で生後6か月以上から小学校6年生までのお子さんのいる方。利用会員は子どもを預けたい場合には、最初にファミリー・サポート・センター(コーディネート)に申し込みます。その後、コーディネーターが協力会員と利用会員

の調整を図り、事前打ち合わせをしてから援助活動を行います。

**鈴木** 研修について、時間や内容について教えてください。

**神崎** 協力会員になられる方も何の知識もなく、お子さんを預かることには、不安があると思いますし、国からは、24時間の研修とその内容について通知が出されているので、それに合わせて研修をしています。

研修内容は保育体験実習、救急講習、子どもの栄養調理実習などです。保育士、看護師、自治体等で規定する子育て支援員の研修を受けている方などは特定の研修が免除されます。



基礎研修の一つ調理実習の様子



協力会員になったきっかけを熱心に話してくれた土井さん（右奥）

**鈴木** この事業には協力会員が必要不可欠だと思いますが、何人の方が協力会員として登録している、利用会員は何人ですか。

**神崎** 協力会員は4人で、利用会員は23人です。（10月1日現在）また、両方会員が1人います。

**鈴木** 土井さんに伺います。協力会員になられたきっかけをお聞かせください。

**土井** 昔、小学校の教員をしていました。私の時代は保育園も2歳からの預かりで、今のように遅くまで預かってくれる所はありませんでした。

自分の娘も仕事をしながら子育てをしていたので、孫が小さい頃は、私が娘の家に行って世話をしていました。

娘の住んでいた市では、すでにファミリー・サポート・センター事業の制度があり、自分の子どもを預けて見てもらったという話を娘から聞き、そのような素敵な制度があるのなら、孫の世話も終わりましたので、仕事をしながら子育てをしている親御さんのお手伝いを、今から私にもできるかなと思ったことがきっかけです。

町にもしすいまちファミリー・サポート・センター事業が始まるということでしたので、研修を受けて協力会員の登録をしました。

**鈴木** 協力会員の研修について伺います。受けてみていかがでしたか。

**土井** 小さい子の成長過程とか、どうならぬ子育てとか、色々話を聞いていて、孫二人を見ていた時を思い出しました。また、調理を教わったり、すごく楽しく終わってしまいましたね。

どのような支援をされているのですか。

**土井** 今年の4月から、3歳の女の子をお一人預かっています。お母さんが仕事で遅くなる日、月に1回くらいですかね。預かる日が平日の時は、18時から20時まで、土曜日は16時から18時までです。

支援内容は、保育園に迎えに行き、私の自宅で絵本の読み聞かせ、おもちゃで遊んだり、夕食と一緒に食べて親御さんが迎えに来るのを待つて過ごしています。

**鈴木** 自宅で子どもを預かることに不安はありませんでしたか。

**土井** 小さい子どもを預かる場合は、まず、ケガをさせてはいけないので、危なそうなものはしまつて、部屋をきれいに片づけるようにしていますね。自宅で預かることには、特に抵抗はなかったです。今日はお子さんが来る日（預かる日）だと思つと、生活にメリハリがつかます。

**鈴木** 協力会員になつて何か困つたこと、大変だったことはありますか。

**土井** 困つたことはないですね。お子さんは好き嫌いなく良く食べてくれます。親御さんも

時間を守つてお子さんを迎えて来てくれます。

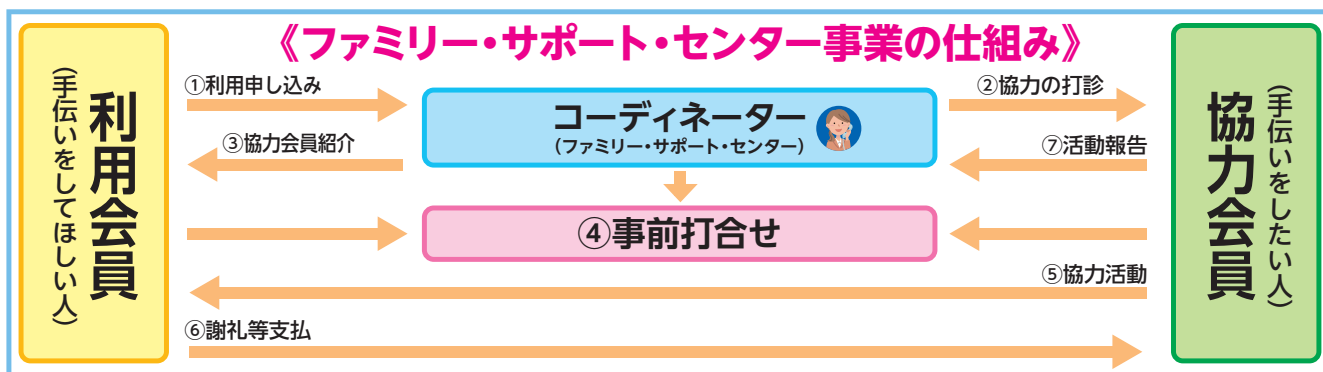
**鈴木** 協力会員になつてよかったと感じることはなんですか。

**土井** お子さんは色んな話をしてくれまふよ。保育園であつたこと、お家であつたこととか。日々、孫の成長を見ているようにとても楽しいですね。





しすいファミリー・サポート・センター事業説明会の様子



**實川** アドバイザーの大宮さんに伺います。協力会員が現在4人ということでしたが、他の協力会員さんから、なつてよかったという感想等を聞いていれば教えてください。

**大宮** 現在、協力会員は4人ですが、何か研修の済んでいない方がいますので、その方々が加わると9人となります。協力会員になっての感想については、協力会員の一人の方から、小学生のお子さんを学童に迎えに行く時、その子が迎えに来てくれたと非常に喜んでくれて、自分を信頼してくれていることが伝わってくるそうです。自分は、男の子しか育てたことがないので、孫を見ているようで非常に楽しいと言っていました。

また、利用会員の方からは、「どうしても保育園の迎えが困難な場合があり、大変助かっています。」「第2子を妊娠中のため、上の子の面倒を見ることが体力的に大変で、お願い出来て良かったです。」「休日に預かってもらえるところがなく困っていたので、とても助かった。」とのご感想をいただいています。

**實川** 協力会員になってもらいたい方ですが、若い人の力も必要ですが、

**大宮** 利用会員は、実家が近くにない方が多く、このような方々には、土井さんのような方が必要だと思います。一方で、お母さん方が協力して子どもを育てていくことも必要ではないかと感じています。学童に預けた子どもを迎えに行ったときに、一緒に他の子連れを帰ってくれる、お互いさまという感じでこの事業を利用していただける、両方が増えたと非常に活用しやすいと思っています。

**實川** しすいファミリー・サポート・センター事業は、利用会員と協力会員双方にとって良い影響があるようですね。最後にこの事業に興味があり、参加してみたいと思っている方々に対して、協力会員として実践されている土井さんから一言お願いします。

**土井** 協力出来る時間で無理なく行うことが良いと思います。私は色々なことを、町の方々(アドバイザー)に相談していますし、相談できる体制が十分に出来ています。安心して、しすいファミリー・サポート・センター事業の協力会員になってもらいたい、酒々井町の子どもたちを地

域の皆で育てていきたいですね。  
**鈴木・實川** 本日はありがとうございました。協力会員の土井さん、町職員の神崎さん、アドバイザーの大宮さんにお話を伺いました。

しすいまちファミリー・サポート・センター事業に関する、申し込み・問い合わせは、酒々井町役場こども課子育て支援班  
 ☎(496) 1171  
 ④(373-374)

◆取材後の感想◆

この取材をして私達は、土井さんがとにかく楽しそうにこの事業に参加しているという感じを受けました。

この事業を多くの町民の方々に知っていただき、参加してくれると良いと思いました。

(鈴木・實川)



ポニーに乗り乗馬体験を楽しむ子ども

## 第2回 酒々井・千葉氏まつり

酒々井・千葉氏まつりに淑徳大学コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科3年の田中、重野、野中が参加しました。

このまつりから感じたことを記事として取りまとめました。

### 酒々井・千葉氏まつりとは？

戦国時代から明治時代中頃まで酒々井で行われていた盛大な祭礼が平成29年10月1日に「酒々井・千葉氏まつり」として復活しました。かつてのばか乗り（仮装行列）や競馬を現代風にアレンジし、どなたでも楽しめるまつりです。

町では、本佐倉城跡を中心に町の歴史文化遺産を活用し、町民の郷土への愛着や地域への誇りを高め、町のイメージ向上とブランド形成を図るため「酒々井・千葉氏まつり」として平成28年度から実施しています。



仮装コンテストに参加した子どもたち

仮装コンテストでは、地域の子どもたちが、様々な仮装をしてコンテストに参加していました。酒々井・千葉氏まつりは、子どもたちも「主役」になれるまつりでした。



仮装を楽しむ子ども

私たち（淑徳大学コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科矢尾板ゼミ）は、千葉市稲毛区で地域交流拠点づくりの活動を行っている地域の方々と一緒にブースを出店しました。

ブースでは、親子向けの「ハワイアンキルト体験」、子ども向けの「夢風呂敷づくり」、そして私たち自身で作った藍染風呂敷の販売を行いました。

「夢風呂敷」とは、白い布地に、子どもたちが自由に、自分たちの夢や思いを込めて絵を描き、世界に一つだけしかない風呂敷を創ろうという取り組みです。子どもたちが、真っ白い風

呂敷の布地を購入し、楽しく絵を描いていました。

まつり当日は晴天にも恵まれ、会場となった町中央台公園には町内外から約3000人の方々の来場があり、大いに賑わっていました。



子どもたちが夢風呂敷に絵を描く様子



淑徳大学出店のブース

### ◆参加後の感想◆

酒々井・千葉氏まつりに初めて参加しましたが、馬との触れ合いや乗馬体験など小さな子どもから高齢者の方まで、みんなが楽しめる、参加しやすい雰囲気的身近なまつりだと感じました。

特に印象に残っているのは仮装コンテストで、歴史を感じさせる仮装だったり、現代で人気のキャラクターに仮装していたりと舞台上立つ本人だけでなく、周りの観客も楽しめるようなステージでした。このまつりに参加していた方々と直接会話をしたりして、地域の方々の温かみを感じました。子どもたちとの触れ合いの中で、子どもたちの笑顔を見ることができたこともよかったです。（田中、重野、野中）